

〈3〉夫婦の子育て

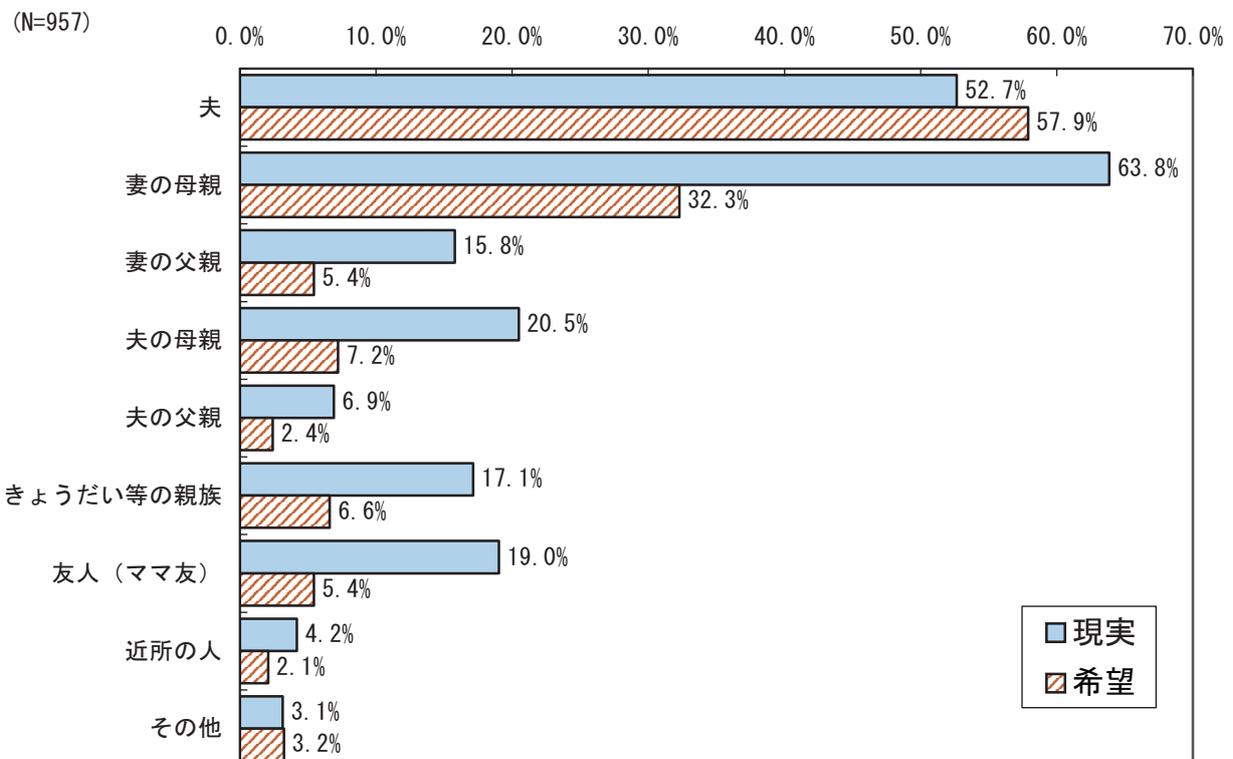
結果のポイント

- 妻の家事や子育てを一番助けてくれる人は「妻の母親」であるが、一番助けてほしい人は「夫」
- 夫婦の子育ての一体感は、夫を感じるほどは妻は感じていない
- 夫が子育てや家事などに積極的に関わっているほど、妻が子育ての一体感を感じる人が多い
- 夫が妻と良好な関係を築いているほど、妻が子育ての不安感・負担感を感じる割合が低い
- 家事や育児の夫婦の分担状況は、妻に負担が偏っており、妻が一番しんどいと感じる「夜泣きの対応」では「まったくしていない」夫の割合が5割近くある
- 夫の「イクメン度」は、夫婦の認識はほぼ同じで約6割がイクメンと思っている
- 子育てに関わっていない夫の理由は、8割近くが「仕事が忙しいから」

① 子育ての手助け

家事や育児を実際に助けてくれた（くれている）人を妻に聞くと、「妻の母親」が63.8%で最も多く、次いで「夫」（52.7%）となっている。一方、助けてほしかった（ほしい）人は、「妻の母親」は32.3%と低くなり、「夫」が57.9%で最も高くなっている。

【図表3-1-1 妻の家事や育児を実際に助けてくれた(ほしかった)人】

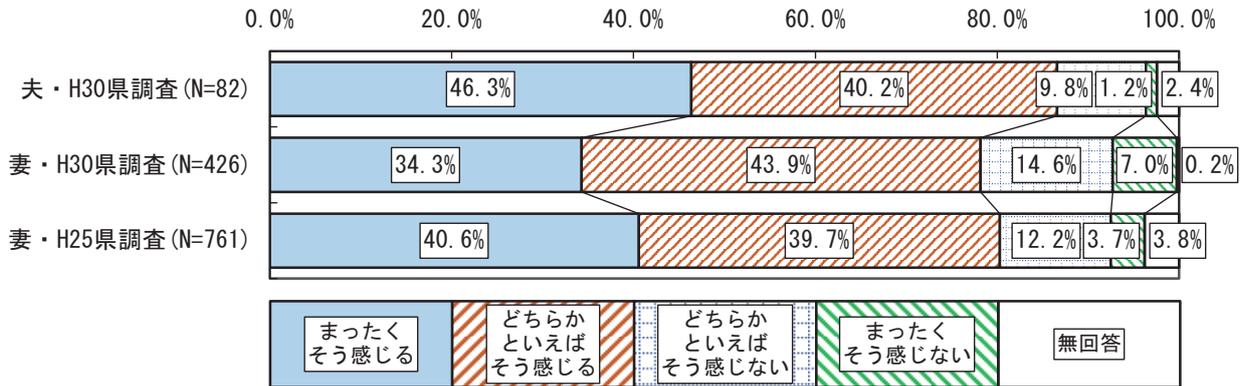


※単数回答だが、複数の選択肢に○をつけた回答が多数あったため、複数回答で処理
※子どものいる妻

② パートナーとの子育ての一体感

パートナーと一緒に子育てをしていると感じている割合をみると、妻ではそう感じる割合が78.2%となっており（「まったくそう感じる」「どちらかといえばそう感じる」の割合の合計）、前回調査に比べて、2.1ポイント低下している。夫は86.5%が一体感を感じており、妻と開きがあることが分かる。

【図表3-2-1 パートナー(夫または妻)との子育ての一体感】



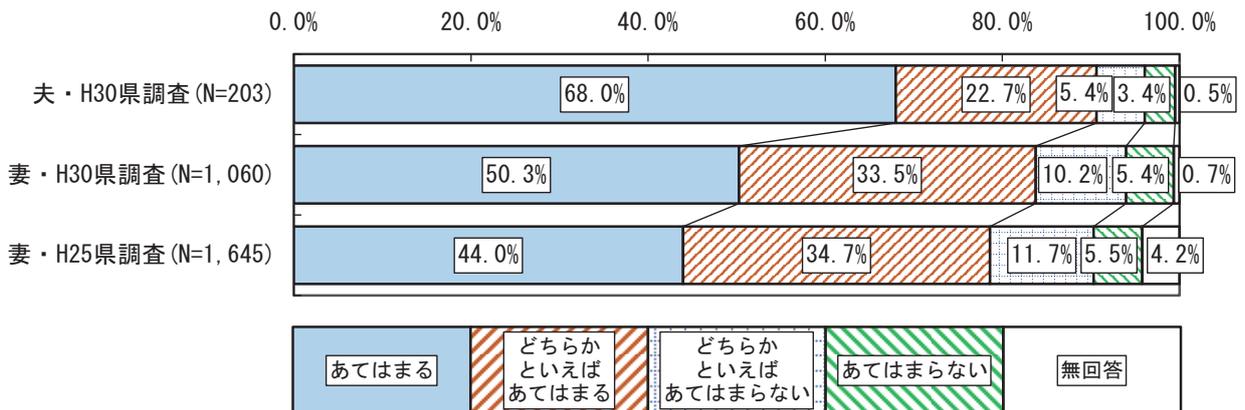
※6歳未満の子どもがいる夫婦

③ パートナーとの関係

パートナーへの評価を聞く5つの設問では、すべてにおいて、夫の妻への評価が、妻の夫への評価より約7～14ポイント高い傾向にある。

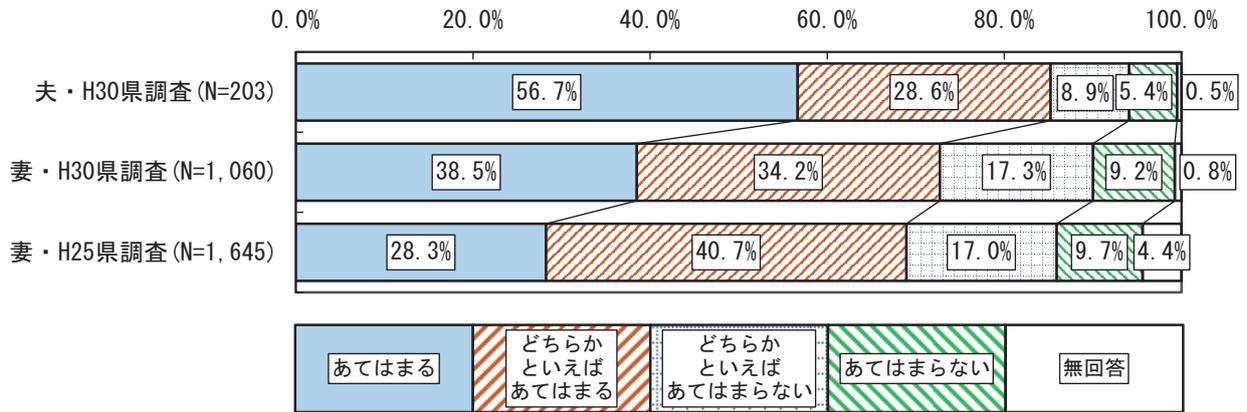
また、前回調査に比べて、妻の夫への評価はやや高くなっている傾向にある。

【図表3-3-1 パートナー(夫または妻)は家族と一緒に過ごす時間をつくる努力をしている】



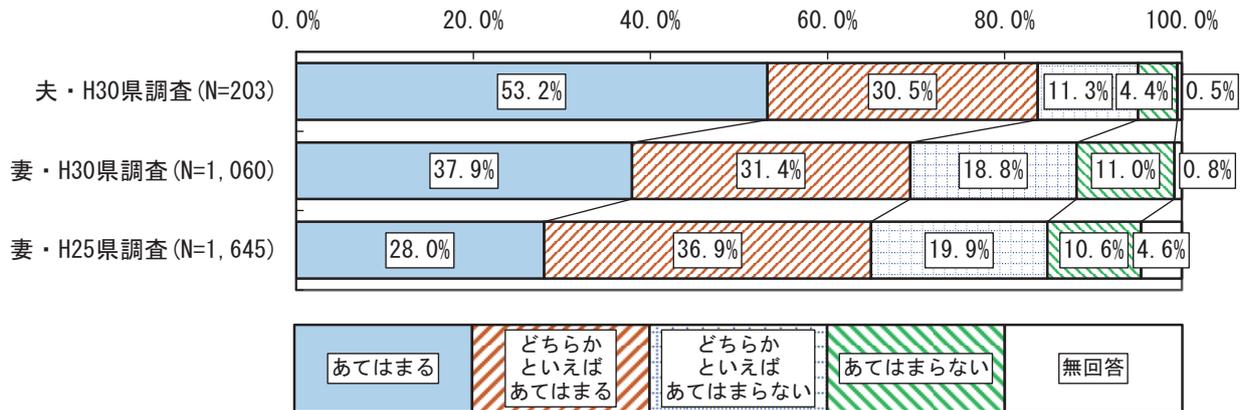
※回答者全数

【図表3-3-2 パートナー(夫または妻)は私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる】



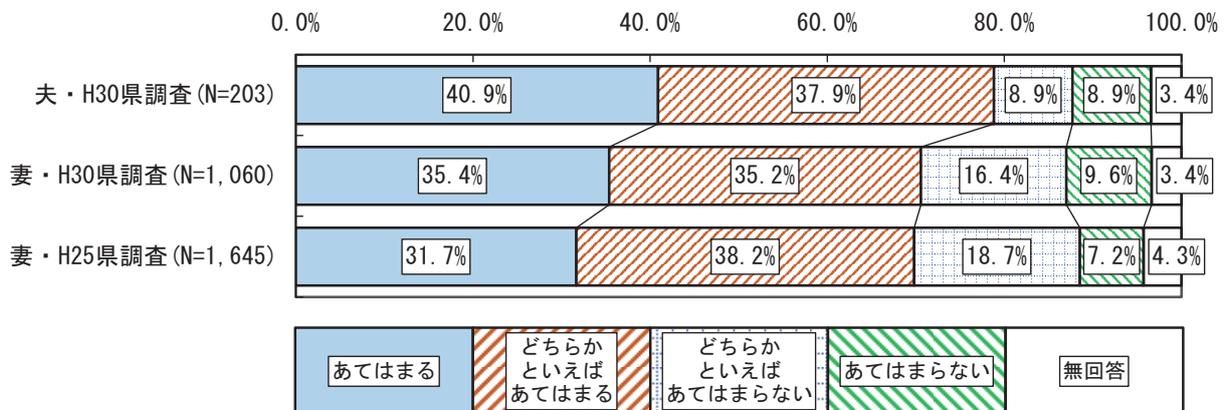
※回答者全数

【図表3-3-3 パートナー(夫または妻)は私の仕事や家事、子育てをねぎらってくれる】



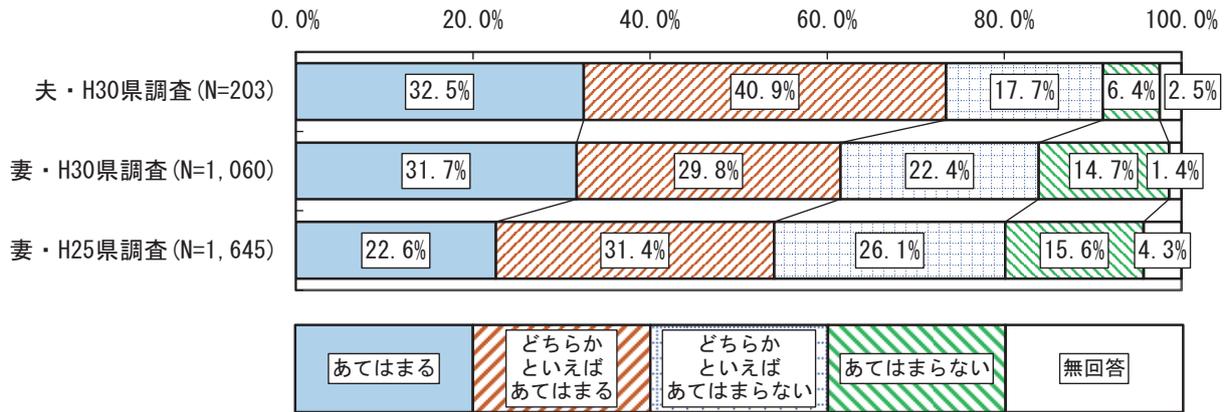
※回答者全数

【図表3-3-4 子育てについてパートナー(夫または妻)とよく話し合っている】



※回答者全数

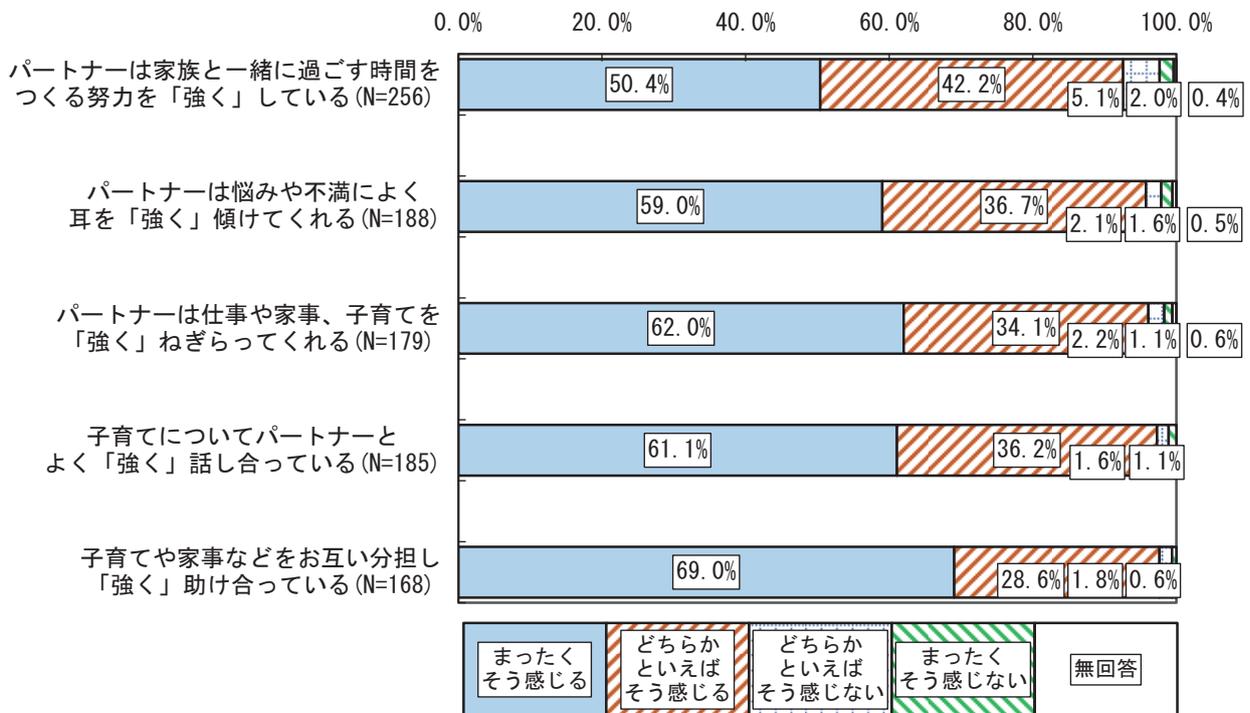
【図表3-3-5 私とパートナー(夫または妻)は子育てや家事などをお互い分担し助け合っている】



※回答者全数

パートナーへの評価の高い妻（P17～19・図表3-3-1～3-3-5の、パートナーとの関係について「あてはまる」と回答した方〔下記図表では「強く」と記載〕）について、パートナーと一緒に子育てをしていると感じている割合（P17・図表3-2-1）をみると、「まったくそう感じる」「どちらかといえばそう感じる」の割合の合計がいずれも9割以上と高い傾向にある。特に、パートナーへの5つの評価の中では、「子育てや家事などをお互い分担し助け合っている」と回答した妻の、パートナーとの一体感を感じる割合が一番高い（69.0%）。

【図表3-3-6 パートナー(夫)との関係が良好な妻のパートナーとの子育て一体感】

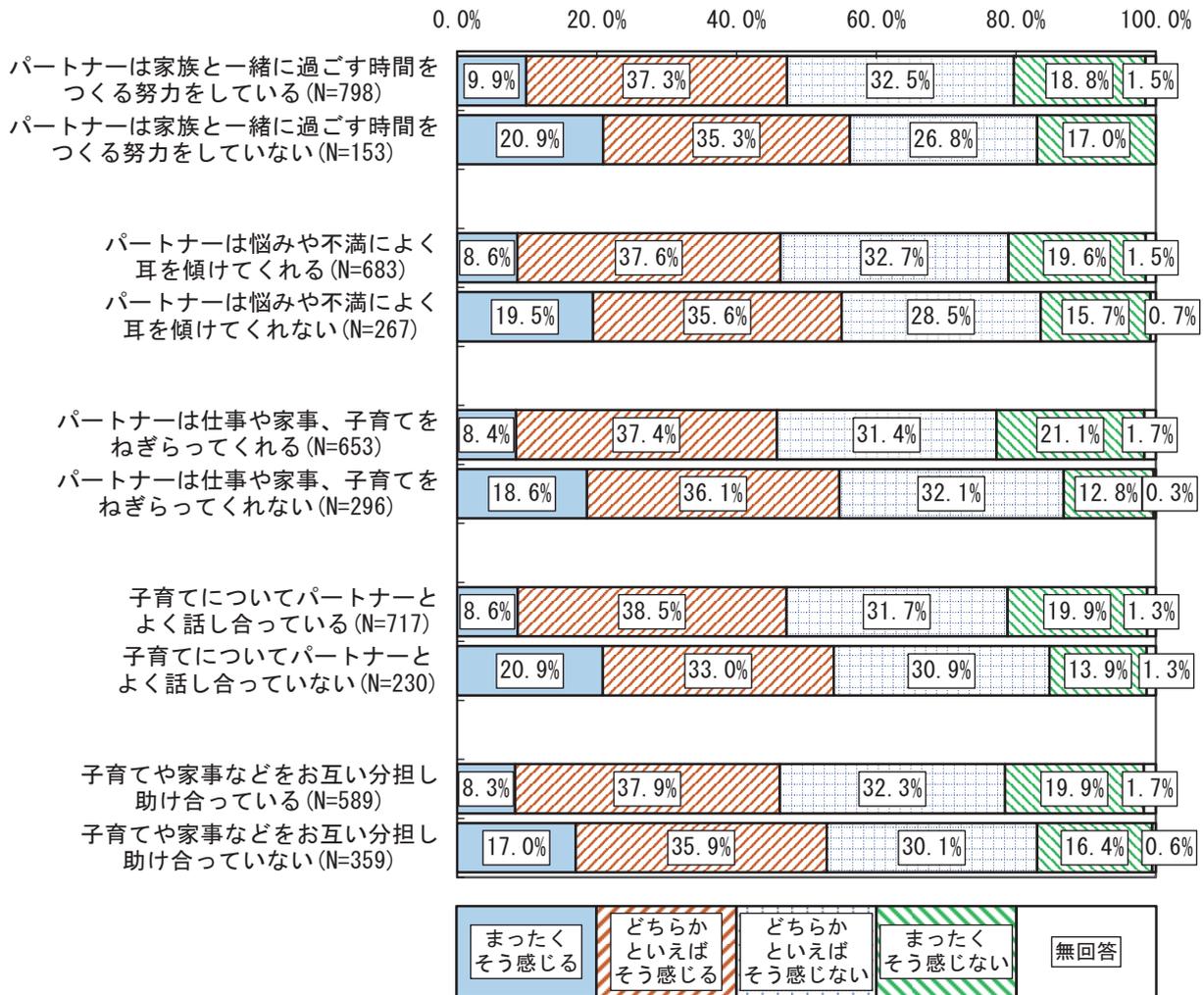


※6歳未満の子どもがいる妻

④ パートナー（夫）との関係別 妻の子育ての心理的・精神的な不安感・負担感

夫との関係別に、妻の子育ての心理的・精神的な不安感・負担感をみると、夫が、家族と過ごす努力をしている、妻との会話を大事にしている、妻をねぎらっている、家事の分担もできているなどのすべての項目で、夫との関係が良好な妻は、そうでない妻に比べ、不安感・負担感の割合がかなり低くなる。

【図表3-4-1 パートナー(夫)との関係別 妻の心理的・精神的な不安感・負担感】



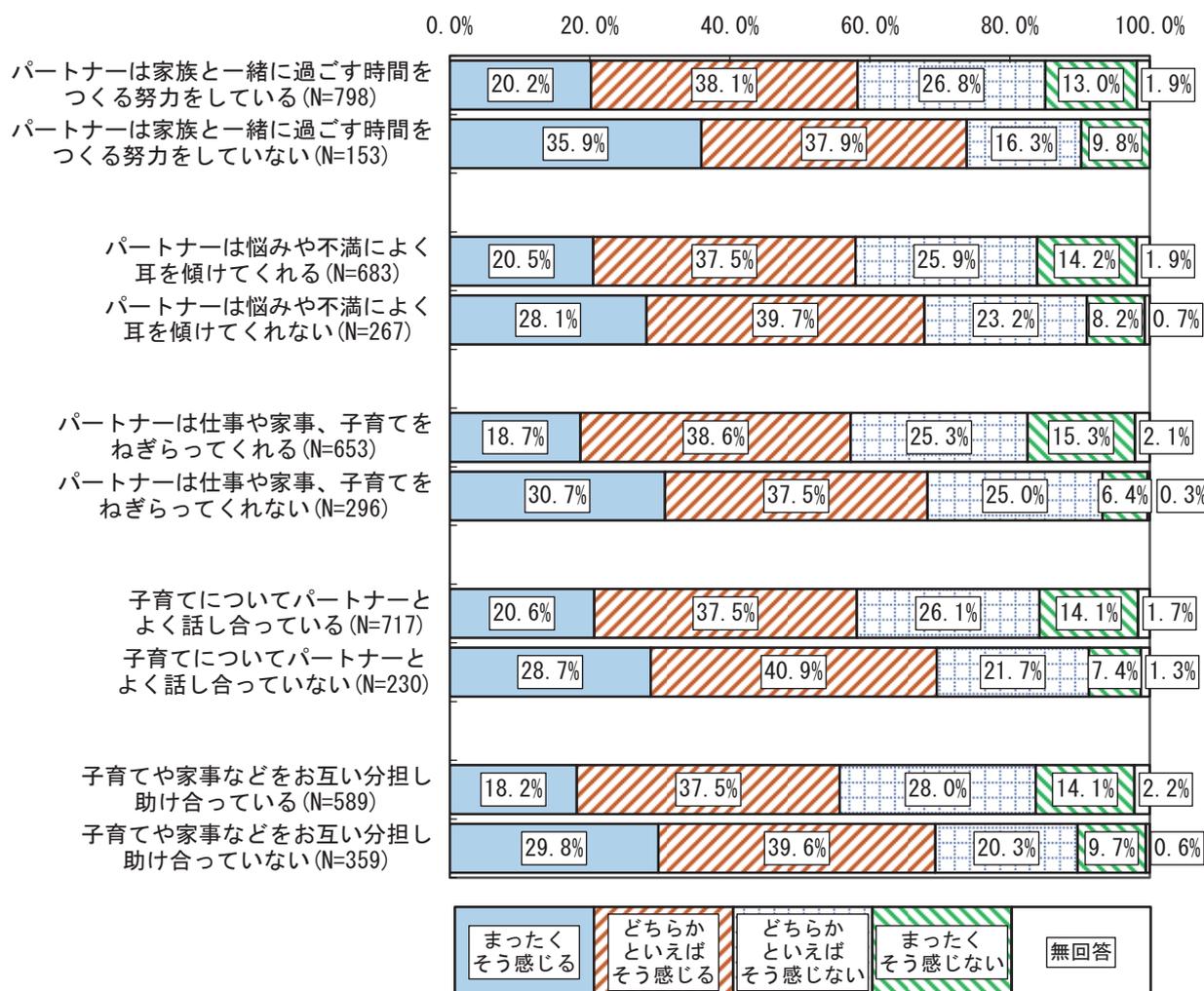
※子どもがいる夫婦の妻
 ※各グラフの上下区分は、図表3-3-1～3-3-5の「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」で区分

◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆ 「パートナーとの関係と妻の不安感・孤立感」

新川泰弘氏（関西福祉科学大学教育学部准教授）

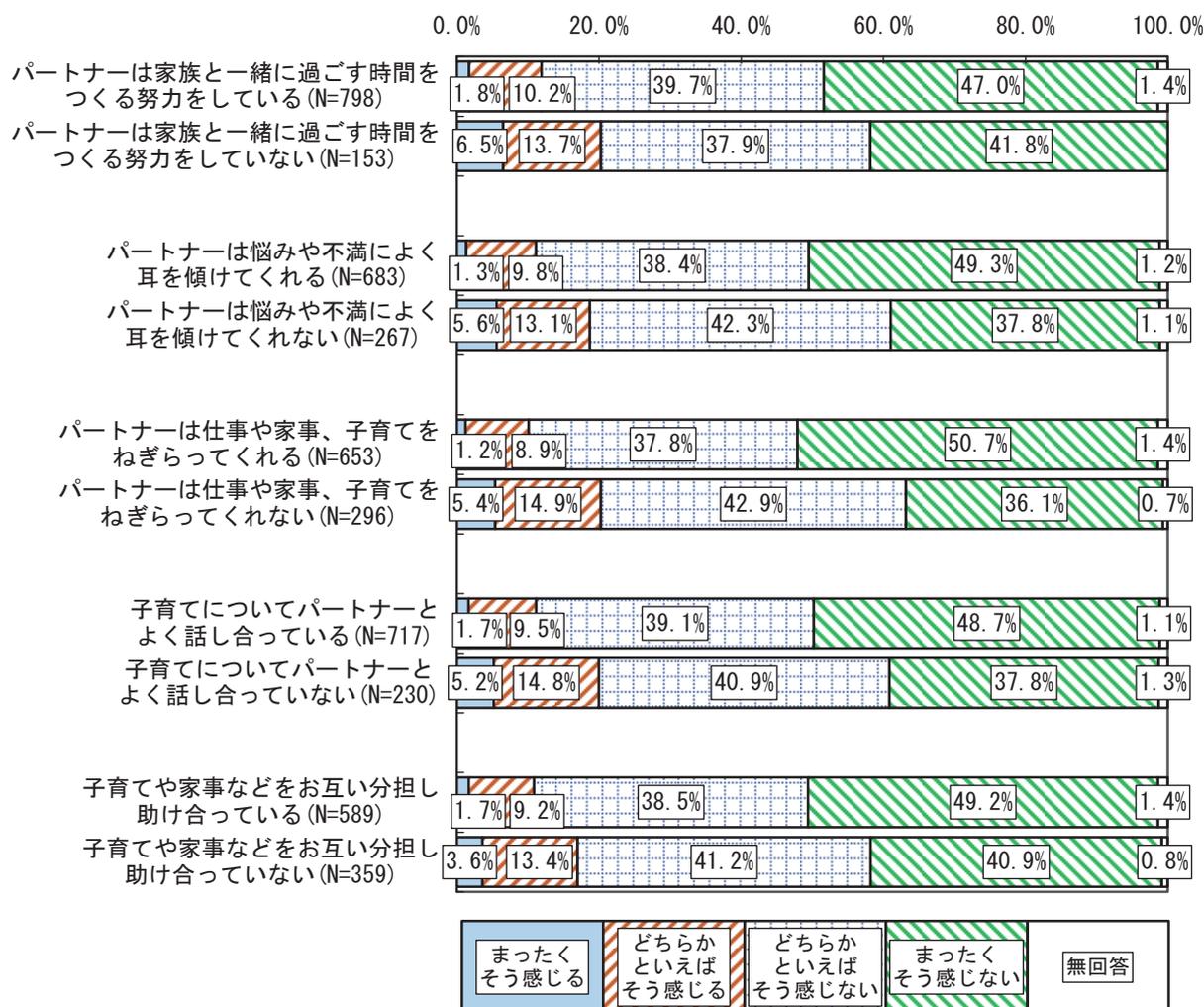
図表3-4-1（P20）のように、パートナーが良好な関係を築くために努力していると、妻の子育ての心理的な不安感・負担感が低くなるという結果は、当然予測されたことである。ここで問題としたいのは、パートナーとの関係と、子育ての経済的な不安感・負担感や周囲からの孤立感が相関しているという結果である（下記・図表3-4-2と次ページ・図表3-4-3）。パートナーとの良好な人間関係が、子育ての心理的な不安感・負担感だけでなく、経済的な不安感・負担感や社会的孤立感を抑制することは注目し得る。それゆえに、パートナーが互いに努力して良好な関係を築けるような子育て家庭への支援を活発化していくことも、今後の重要な課題となると思われる。

【図表3-4-2 パートナー(夫)との関係別 妻の金銭的・経済的な不安感・負担感】



※子どもがいる夫婦の妻
 ※各グラフの上下区分は、図表3-3-1～3-3-5の「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」で区分

【図表3-4-3 パートナー(夫)との関係別 妻の周囲からの孤立感】



※子どもがいる夫婦の妻

※各グラフの上下区分は、図表3-3-1～3-3-5の「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」で区分

◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆ 「パートナーとの関係と年収」

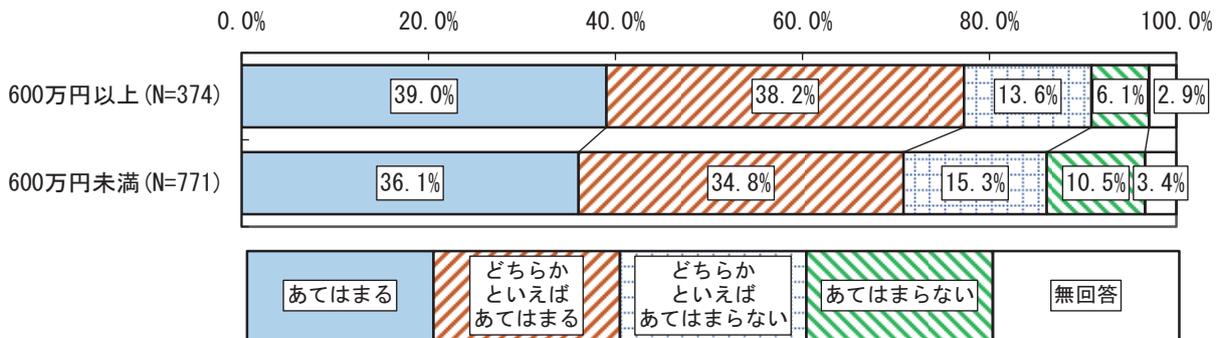
新川泰弘氏（関西福祉科学大学教育学部准教授）

夫の収入が高い方が、子育てについてパートナー（夫または妻）とよく話し合っている割合が高い（下記・図表3-4-4）。また当然のことであるが、夫の収入が高い方が、妻が子育てに金銭的・経済的な不安・負担をあまり感じていないこともわかっている。

一方、妻の年間の収入が高い方が、子育てや家事などをお互い分担し助け合っている割合が高い（下記・図表3-4-5）。

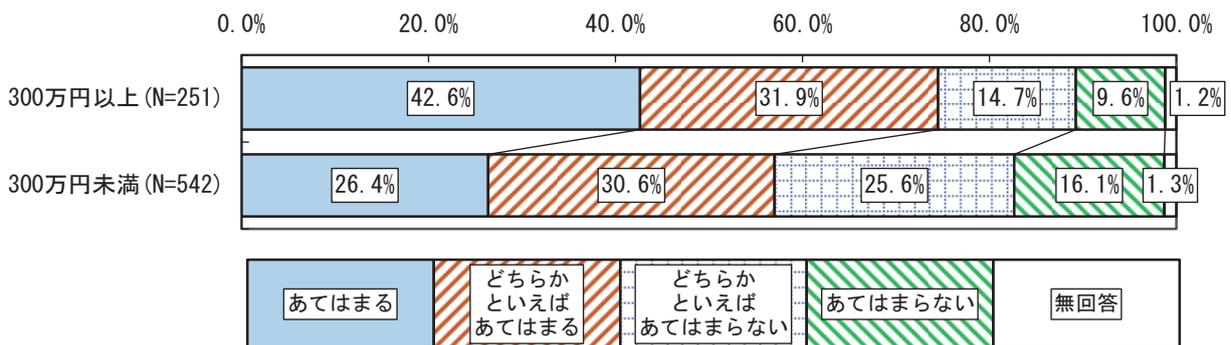
この結果から、子育てについて話し合い、子育てと家事を分担していける、仕事・子育て・家事のバランスがとれた子育て家庭という理念の実現のためには、その理念を社会全体がしっかりと受け止めるとともに、収入の格差を是正し、すべての人が社会で活躍し、より高い収入を得られるような制度・サービスを創り出すという課題が浮き彫りとなってくる。

【図表3-4-4 年間の収入(夫)別 子育てについてパートナー(夫または妻)とよく話し合っている】



※回答者全数（夫の年収不明を除く）

【図表3-4-5 年間の収入(妻)別 私とパートナー(夫または妻)は子育てや家事などをお互い分担し助け合っている】

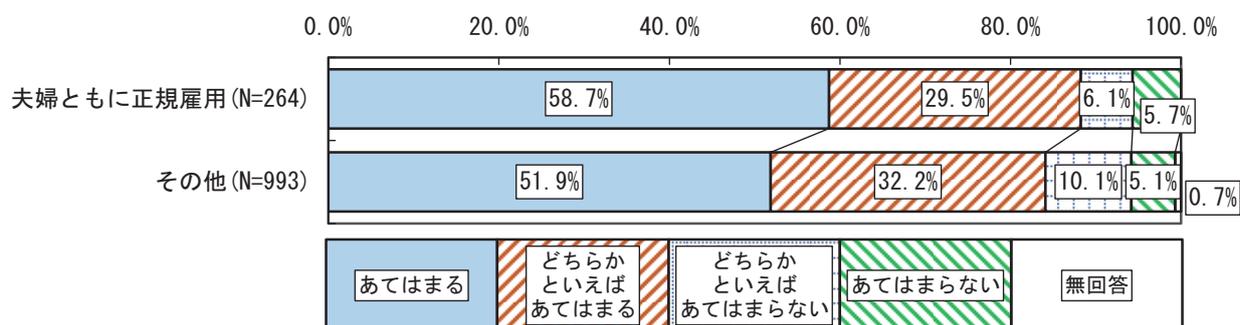


※回答者全数（妻の年収不明を除く）

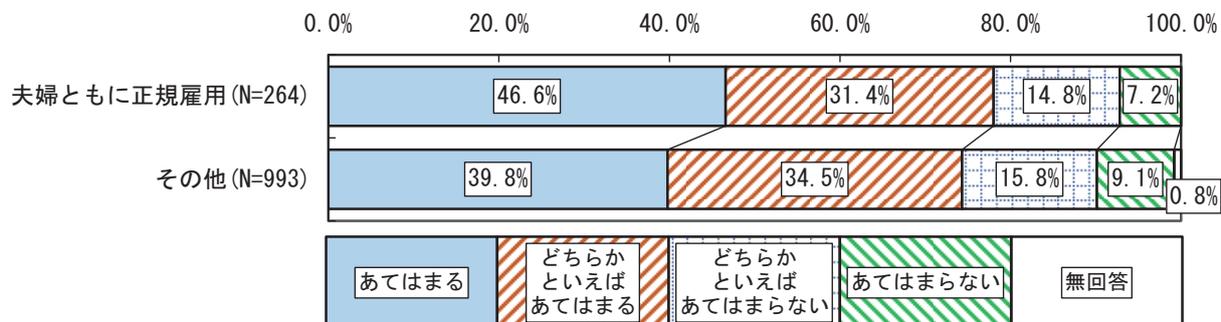
◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆ 「パートナーとの関係と夫婦の就労形態」
筒井淳也氏（立命館大学産業社会学部教授）

夫婦の就労類型別にパートナーとの関係をみると（下記・図表3-4-6～3-4-8）、正規雇用夫婦の場合、その他の夫婦よりも、パートナーとの情緒的な関係を充実させようという試みが目立つ。経済的な関係が対等である分、関係も対等になり、互いを尊重し合う傾向が生まれるかもしれない。夫婦相互のメンタルサポートは幸福度に極めて強く影響することが知られており、この点は注目に値する。

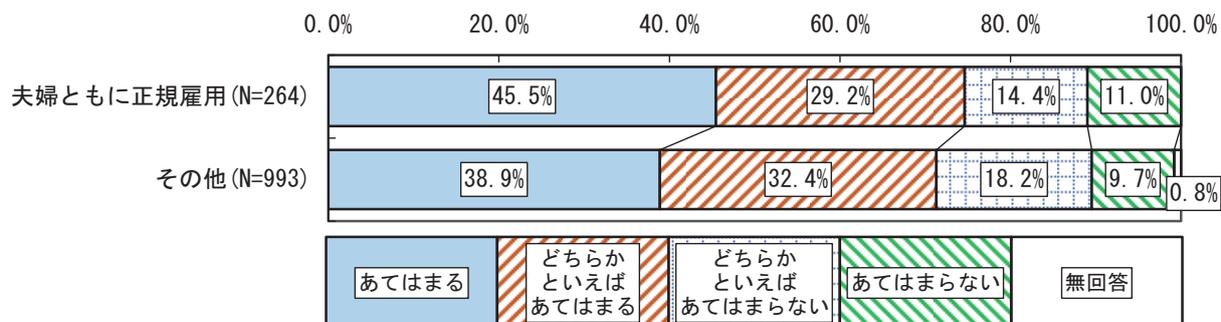
【図表3-4-6 就労類型別 パートナー(夫または妻)は家族と一緒に過ごす時間をつくる努力をしている】



【図表3-4-7 就労類型別 パートナー(夫または妻)は私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる】



【図表3-4-8 就労類型別 パートナー(夫または妻)は私の仕事や家事、子育てをねぎらってくれる】



※回答者全数（就労類型不明を除く）（図表3-4-6～3-4-8同じ）

⑤ 家事・育児の分担状況

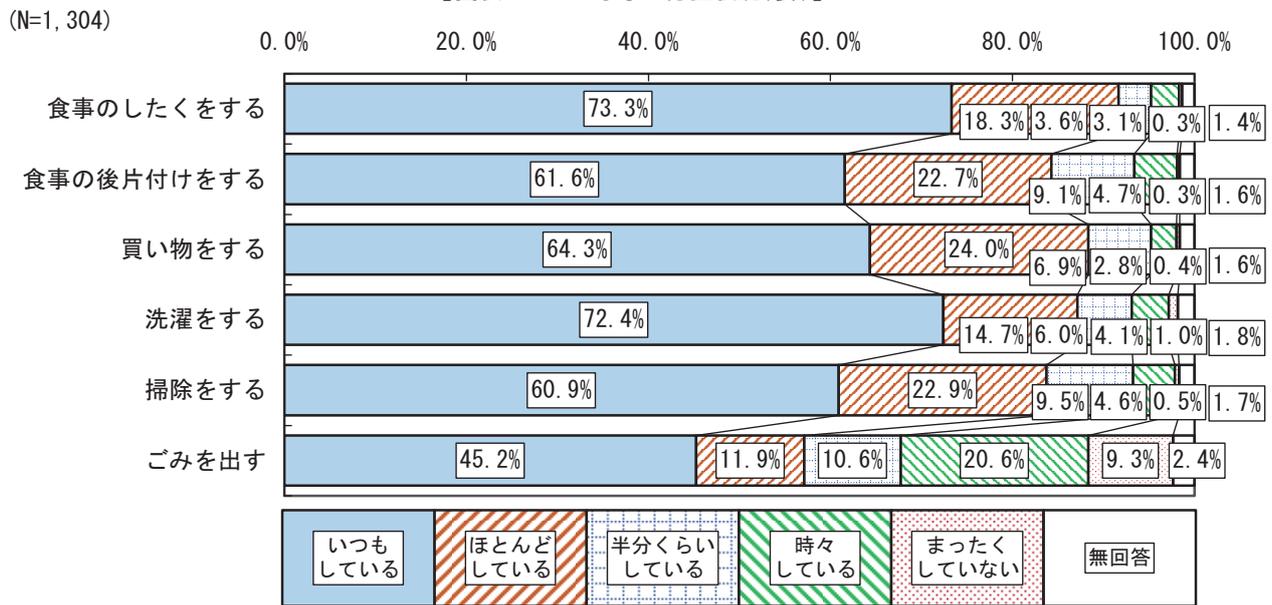
⑤-1 家事の分担状況

妻に夫との家事の分担状況を聞くと、「いつもしている」「ほとんどしている」の合計の割合が、一番高い「食事のしたく」(91.6%)をはじめ、「ごみ出し」以外のすべての項目で80%を超えている。

夫では、「いつもしている」「ほとんどしている」の合計の割合が一番高いのが「ごみ出し」の34.3%で、あとの項目はすべて2割にも満たない。反対に「まったくしていない」のは、「洗濯」(50.2%)および「食事のしたく」(47.1%)が高く、その他3割以上の項目が3項目もあるという結果である。

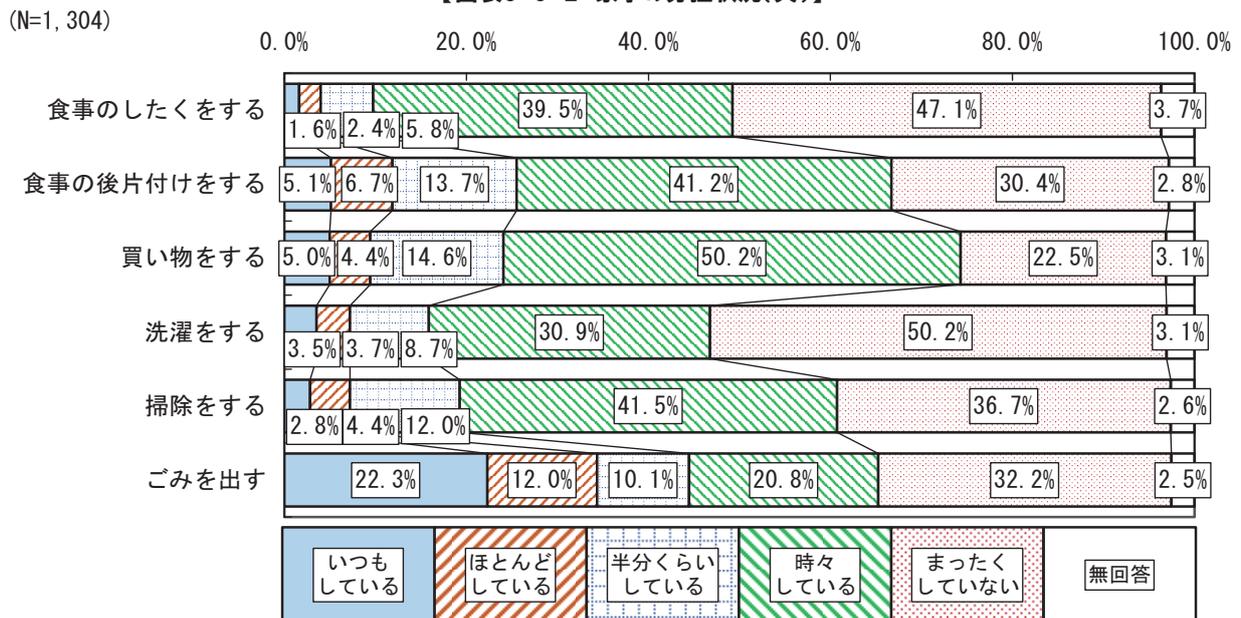
家事分担については、全体的に妻にかなり偏っているという結果となっている。

【図表3-5-1 家事の分担状況(妻)】



※回答者全数

【図表3-5-2 家事の分担状況(夫)】



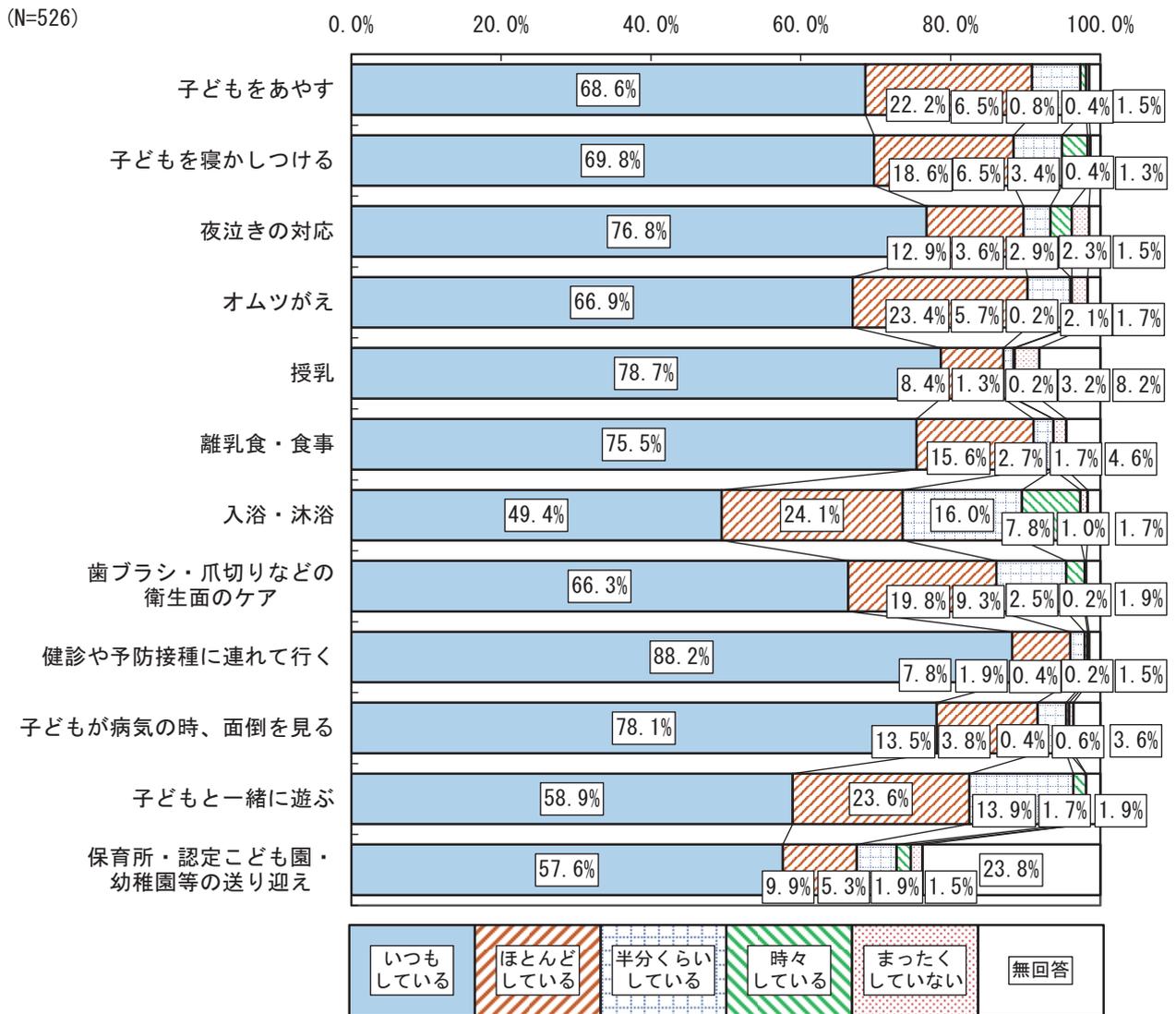
※回答者全数

⑤-2 育児の分担状況

妻に夫との家事の分担状況を聞くと、「いつもしている」「ほとんどしている」の合計の割合が、一番高い「健診や予防接種に連れて行く」(96.0%)をはじめ、12項目中8項目が9割前後となっている。あとの4項目の割合も7~8割となっている。

夫では、「いつもしている」「ほとんどしている」の合計の割合が高いのが「子どもと一緒に遊ぶ」の39.6%で、次いで「子どもをあやす」(35.2%)、「入浴・沐浴」(25.6%)だが、その他の項目はほとんどが1割前後である。また、「まったくしていない」項目で3割以上のものが5項目あり、なかでも妻が子育てでしんどいと感じた要因の第1位である(P14・図表2-3-1)「夜泣きの対応」は45.8%となっている。

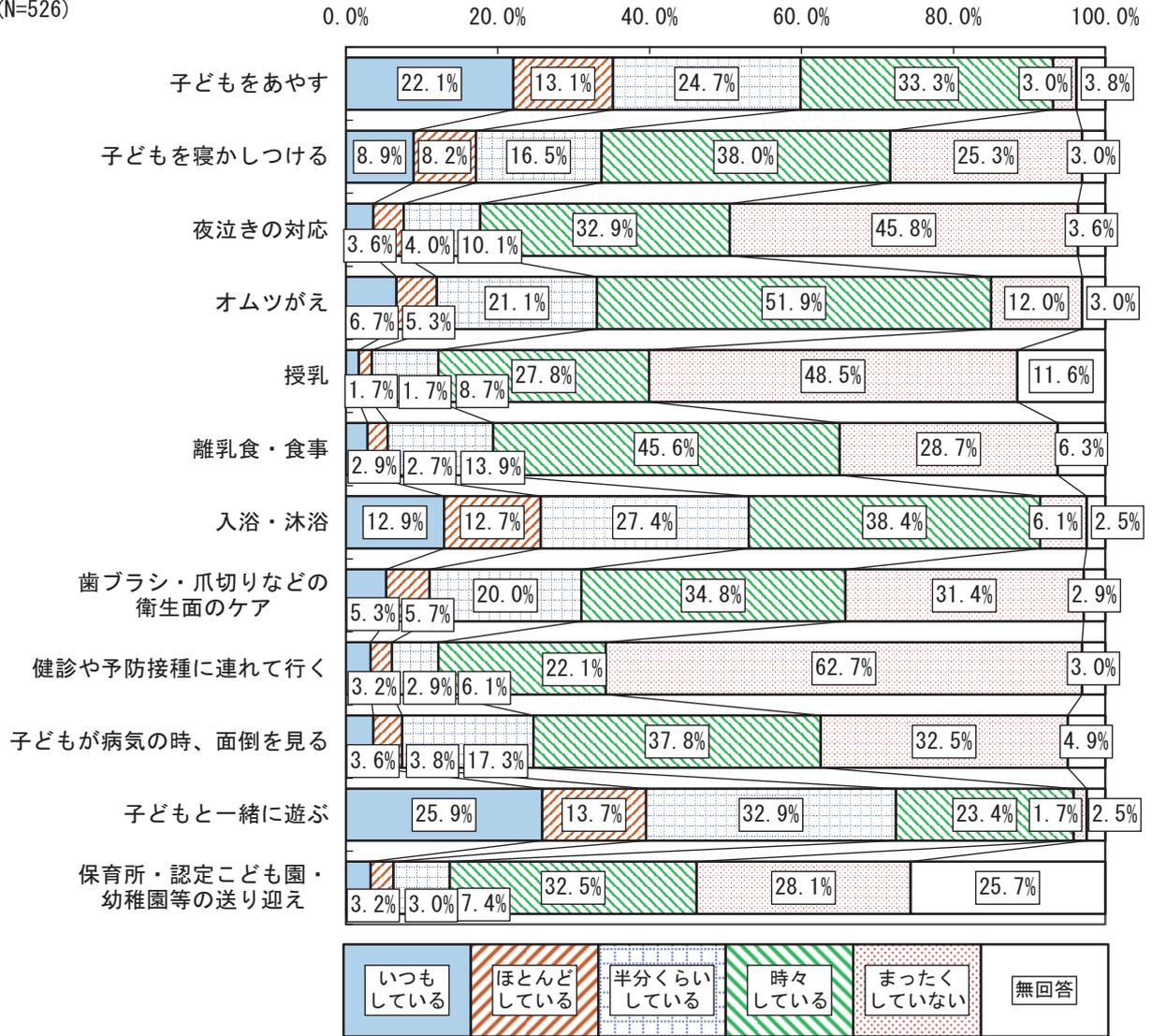
【図表3-5-3 育児の分担状況(妻)】



※6歳未満の子どもがいる夫婦

【図表3-5-4 育児の分担状況(夫)】

(N=526)



※ 6歳未満の子どもがいる夫婦

◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆ 「夫の家事スキルの重要性」

筒井淳也氏（立命館大学産業社会学部教授）

就労類型別に家事の分担状況をみると、正規雇用夫婦においても平等な負担への「道半ば」である（下記・図表3-5-5）。たしかに正規雇用夫婦では、他の類型の夫婦よりも家事を平等に負担している傾向がみられる。しかし、夫が家事を増やしたとき、必ずしも妻の家事がその分減っている、というわけではない。たとえば「洗濯」についてしてみると、「子ども有・正規雇用共働き」の夫は、「子ども有・正規共働き以外」の夫と比べると、家事分担状況が0.69ポイント高く、より平等であることがわかる。しかし「子ども有・正規雇用共働き」の妻は、「子ども有・正規共働き以外」の妻よりも0.56ポイントしか洗濯の頻度が少なくなっていない。夫がより効果的な家事を遂行できるスキルを身につけることで、妻の負担をはじめて実質的に減らすことができるのである。

【図表3-5-5 就労類型別 家事の分担状況】

	① 食事のしたくをする		② 食事の後片付けをする		③ 買い物をする	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻
子ども有・正規雇用共働き	1.88	4.44	2.62	4.10	2.40	4.33
子ども有・いずれかが正規雇用でない	1.57	4.75	1.97	4.56	2.05	4.61
子ども有・自営業	1.54	4.65	1.74	4.57	2.02	4.54
子ども無・正規雇用共働き	2.28	4.00	2.71	3.74	2.63	3.92
子ども無・いずれかが正規雇用でない	1.76	4.47	2.24	4.37	2.29	4.42
子ども無・自営業	2.36	3.73	2.73	3.82	2.91	4.45
夫婦双方無回答	1.79	4.61	2.33	4.45	2.51	4.50
全体	1.67	4.64	2.12	4.43	2.16	4.52
	④ 洗濯をする		⑤ 掃除をする		⑥ ごみを出す	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻
子ども有・正規雇用共働き	2.30	4.13	2.29	4.12	3.25	3.15
子ども有・いずれかが正規雇用でない	1.61	4.69	1.80	4.54	2.48	3.85
子ども有・自営業	1.35	4.79	1.69	4.48	2.38	3.87
子ども無・正規雇用共働き	2.29	3.95	2.42	3.74	3.61	2.63
子ども無・いずれかが正規雇用でない	1.78	4.59	1.91	4.42	3.03	3.40
子ども無・自営業	2.36	3.82	2.55	3.27	3.82	3.09
夫婦双方無回答	1.86	4.64	2.23	4.45	2.88	3.73
全体	1.76	4.56	1.92	4.41	2.71	3.65

※ 「いつもしている」＝5点、「ほとんどしている」＝4点、「半分くらいしている」＝3点、「時々している」＝2点、「まったくしていない」＝1点で計算

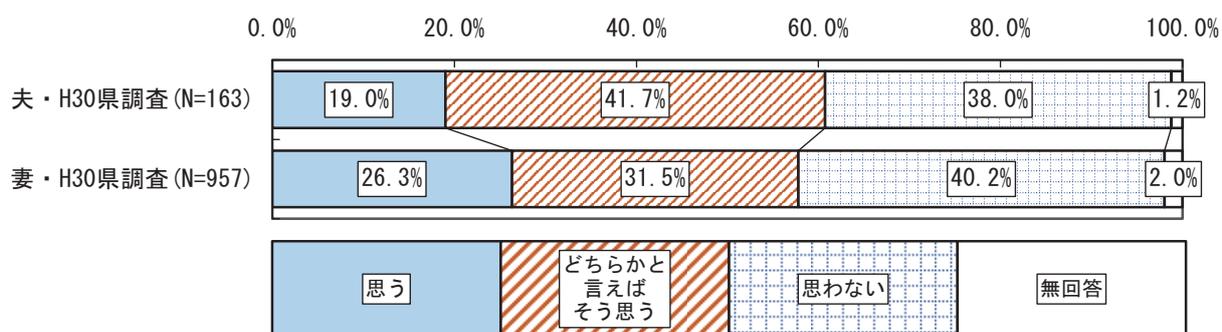
(回答数)	① 食事のしたくをする		② 食事の後片付けをする		③ 買い物をする	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻
子ども有・正規雇用共働き	221	225	223	225	220	225
子ども有・いずれかが正規雇用でない	751	771	759	768	755	769
子ども有・自営業	103	104	101	104	103	104
子ども無・正規雇用共働き	36	38	38	38	38	38
子ども無・いずれかが正規雇用でない	91	93	92	93	93	92
子ども無・自営業	11	11	11	11	11	11
夫婦双方無回答	43	44	43	44	43	44
全体	1,256	1,286	1,267	1,283	1,263	1,283
	④ 洗濯をする		⑤ 掃除をする		⑥ ごみを出す	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻
子ども有・正規雇用共働き	223	223	224	225	224	225
子ども有・いずれかが正規雇用でない	755	767	758	768	759	761
子ども有・自営業	102	104	104	103	104	102
子ども無・正規雇用共働き	38	38	38	38	38	38
子ども無・いずれかが正規雇用でない	92	93	92	93	92	92
子ども無・自営業	11	11	11	11	11	11
夫婦双方無回答	43	44	43	44	43	44
全体	1,264	1,280	1,270	1,282	1,271	1,273

⑥ 夫の「イクメン」度

⑥-1 夫は育児を積極的にする男性（イクメン）か

夫が育児を積極的にする男性と思う妻は57.8%であり、夫の回答は60.7%とほぼ同程度となっている（「思う」「どちらかと言えば思う」の合計）。

【図表3-6-1 夫は育児を積極的にする男性か】

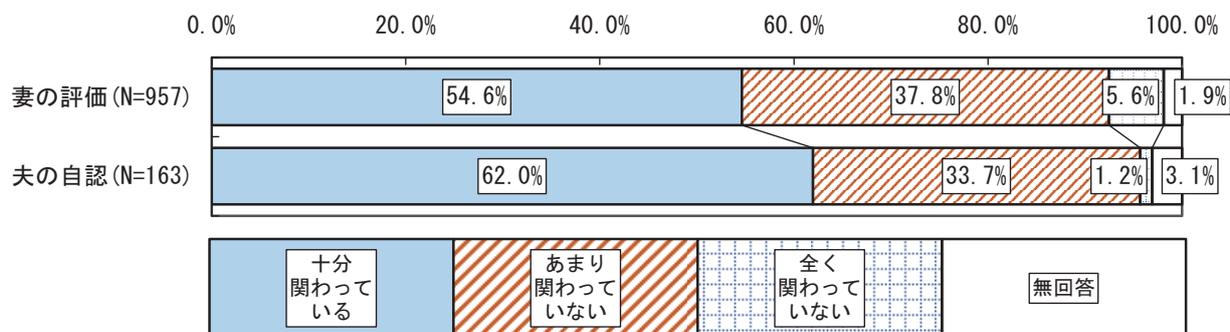


※子どもがいる夫婦

⑥-2 夫の子育ての関わり方

夫は子育てに「十分関わっている」と思う妻は54.6%であり、夫の自認では62.0%となっている。また関わっていない（「あまり関わっていない」と「全く関わっていない」の合計）と思う妻は43.4%、夫の自認では34.9%となっており、どちらも妻の評価のほうが低い。

【図表3-6-2 夫の子育ての関わり方】

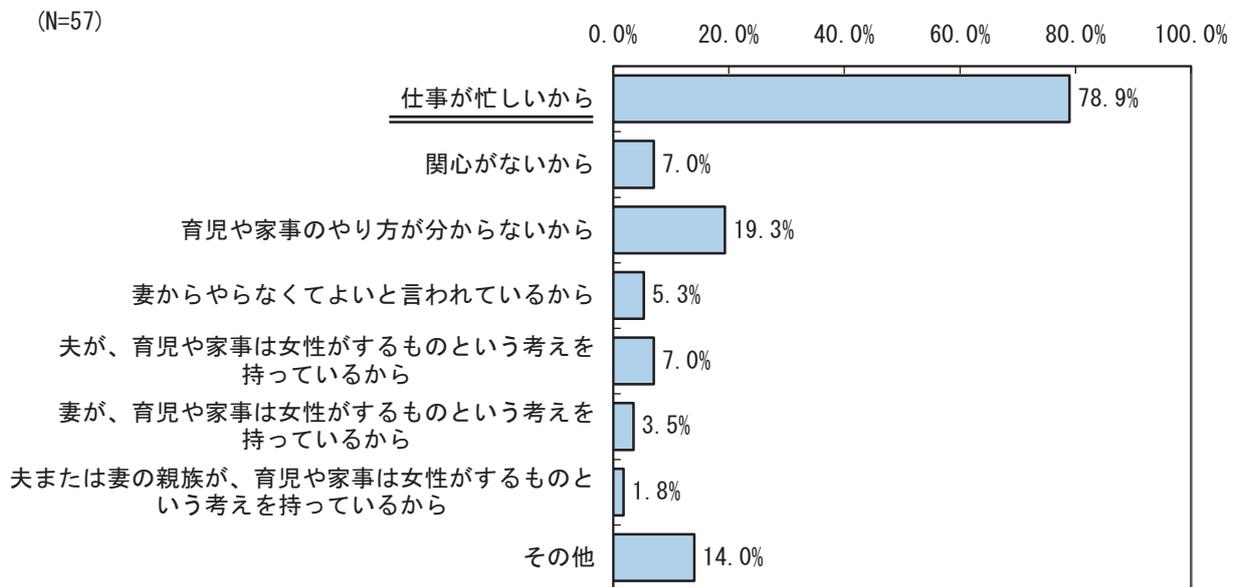


※子どもがいる夫婦

⑥-3 夫が子育てに関わらない理由

子育てに関わっていないと自認している夫の理由は、「仕事が忙しいから」が78.9%で最も多く、次いで「育児や家事のやり方が分からないから」（19.3%）となっている。

【図表3-6-3 夫が子育てに関わらない理由】(複数回答)



※子育てに「あまり関わっていない」または「全く関わっていない」と回答した夫

◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆ 「父親の子育ての課題」

小崎恭弘氏（大阪教育大学教育学部准教授）

夫の「イクメン」度（P29・図表3-6-1）において、肯定群「思う・どちらかと言えば思う思う」の割合が、夫意識と妻意識がほぼ同割合であり、夫婦での一致が見られる。また「思う」だけを見ると、妻の方が7ポイントほど高い。比較的妻からの育児の評価は高いように感じる。しかしあまり関わっていない、全く関わっていないグループも少なくはない。

また子育てに関わっていない夫の理由の第一位は圧倒的に「仕事が忙しいから」となっている。

そして〈3〉夫婦の子育ての「パートナーとの子育ての一体感」「パートナーとの関係」（P17～）については、妻と夫において齟齬が見られる。夫は子育ての一体感を感じていたり、妻と良好な関係を築いていると自認している割合が高いが、妻は夫ほどどの項目も高くはなく、ズレを感じる。

このような視点から、二つのことがうかがえる。

- 父親の育児に熱心なグループ（いわゆるイクメングループ）とそうでないグループの二極化が進んでいる。
- 妻の意識と夫の意識においては、齟齬が見られる。夫の思っているほど、パートナーシップに関して妻の評価は高くはない。

これらから二つの提案ができる。

- 全ての夫（父親）の仕事の家庭生活（特に育児）に関して、積極的な関わりのできる取り組みが必要である。育児休業を含め父親が育児をしやすい環境作りなど、企業におけるワークライフバランスの推進が求められる。
- 夫婦の齟齬やギャップの是正を意識した啓発や学習の機会が必要である。これは夫婦当事者のみならず、企業や学校など、幅広く社会的な学びや理解ができるようにしていくことが求められる。